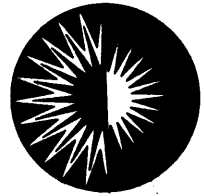




1982年 1月 No.12



# 技術開発ニュース

## 研究紹介

- 需要想定システムについて…………… 2
- 冷凍・冷蔵庫類の冷氣もれ測定方法の開発… 3
- 露出形耐塩用ASの開発…………… 4
- 系統安定度の監視, 制御システムの開発… 5
- 新形GISの開発…………… 6
- 高標高送電線の雷撃実験…………… 7
- 多地点地震観測による  
地震動増幅傾向の研究………… 8

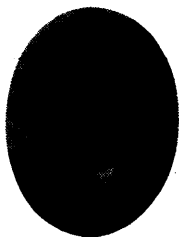
- 尾鷲三田火力2号電気式ABC  
故障診断装置の概要…………… 9
- シグマ相の定量によるボイラ熱器管の  
残寿命推定……………10
- 格納容器圧力抑制プール内面除染機の開発…11
- コンバインドサイクル発電について……………12

限りある資源を大切に

## 技術解説

## ヨコ糸の強化

常務取締役 蛭川達雄



数次の石油ショックで世界中がインフレと景気不況の中で、資源弱小国の日本は国際収支の黒字減らし中と、他国に比べ経済はやや安定している。この主因は、生産の伸びに占める寄与度が五十数%と言われる著しい技術の進歩であろう。「安かろう。悪かろう」の日本製品は、今や「良質で安価」とイメージチェンジ。これは、大企業やガレージインダストリーの大胆な技術開発の成果である。

一方、高度成長時代の「消費は王様の観念」が、「勿体ない」「省資源」に変化しつつあるのは誠に喜ばしい。だが、我国は今後も依然として技術で立つしか生きる道がない。

元来、我国は親子、師弟、組織など同様に技術開発の体制もタテ糸は堅固だが、以下列挙のように、もっとヨコ糸を強化する必要がある。創造的思考は弱いとよく言われるが、日本人の頭脳は「塵劫記」でも分る様に素晴らしい。この優秀な頭脳を海外流出させない環境づくりが必要だ。教育面では「偏差値主義」だが、もっと研究者を育てる英才教育もすべきだ。基礎的、革新的技術開発を一番担当すべき大学や研究所の諸先生方は、委員会や学会などの会合に時間をとられ過ぎだ。また、研究費の国家負担は欧米に比べ相当に少ないと聞く。次に原子力、宇宙、海洋といったビッグサイエンスや材料、情報技術及び、ライフサイエンスなど将来的に発展性の大きい技術開発は夫々、幾つもの省庁が並列にリードし総合化があいまいだ。また、著しい技術進歩及至は既存技術の改善は主に企業の分担かも知れぬが、もっと官学産の協同の実をあげねばならぬ。各企業はこと企業の盛衰に関するので、研究開発には至極熱心だが、他企業との関連は消極的だ。企業内の誰もが、問題点、アイデアあるいはヒントを積極的に研究者へ提供すべきだ。この様にヨコ糸を強化し、技術開発の実をあげねばならぬ。

最後に、著しい寿命の延長、類似人間の進出など、いくら技術革新があっても我々のもつ人間性だけは失われぬ様にしたいと思う。